

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>1. 行財政改革について</p> <p>先日の本会議でも申しあげたが、社会は大きく様変わりをしようとしており、このまま手を打っていかねばわが国は全く異なる様相を示すことになるのは明白である。</p> <p>先日、人口問題研究所より推計人口が発表されているが、あの数字を見れば、今から 50 年先の 2060 年には 1 億 3 千万の日本の人口が 8670 万人になってしまう。この数字を見て愕然としない人があるんだったら、1 回見たいと思っている。こんな数字になってしまうという社会に対して、私たちは本当に真剣に取り組んでいかねばならないと思っている。8674 万人になっていいじゃないかというかもしれないが、年齢構成が違う。働く人達がいな。本来の働くべき人たちが非常に少なくなってしまって働けない高齢者ばかりになる。そういう社会とはどんな社会か皆さんは想像できるだろうか。今でもある。今の東北 3 県の姿がそうである。働く所がないため、若い人がどんどん出ていかざるを得ないのである。</p> <p>ああいう社会になってしまうことが、この人口推計で出ているにもかかわらず、私は国会でこのことについて大議論をやっているのを見たことがない。どうなっているのかと申し上げたいが、まず私は神戸で申し上げたいと思っている。こういう<u>危機的な人口問題</u>になっているに</p>	<p>行 財 政 局 長</p>	<p>たくさんご指摘をいただいたが、福祉施設等については、計画の中でも<u>高齢者福祉施設、障害者福祉施設</u>について、<u>民間の活力を導入すること</u>としている。<u>保育所についても、民間による建替運営を現在進行中</u>である。<u>指定管理者制度</u>について、本来、民間への売却を前提とするべきというご質問であったが、<u>採算が合うかどうかなど売却が難しい</u>ということがあると思うので、<u>現在は主に運営を民間に任せているが、これも民間活力の導入</u>ということには変わらないと思う。</p> <p><u>市営住宅</u>については、<u>マネジメント計画で戸数を減らすと共に、今後、民間の賃貸住宅がこれまで市営住宅が担ってきた住宅のセーフティネットの役割を担うあり方について、検討を始めている</u>と都市計画総局から聞いている。</p> <p>行財政改革 2015 の中で、目標を達成するためには民間活力の導入は重要な手法であると考えているので、全体として各項目について民間活力をさらに導入できないか、検討していく所存である。</p>

質疑者 北山 順一 委員

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p><u>もかかわらずこれに対する対応をしないことは大問題</u>があると思う。</p> <p>神戸は少なくとも「<u>子育て日本一のまち</u>」をつくるという立場で取り組んでいただけたらこの危機を脱することは出来るのではないかと思っている。私たちの言っている、その場さえしのげたらいいと思うのではなく、<u>真剣に取り組んでいただきたい</u>と思っている。</p> <p>また、過去では本市は、行政経営方針に基づいて、民営化をやり、民間委託など積極的に民間活力の導入を行います、と言っていた。現在は、神戸市行財政改革 2015 に基づいて、業務プロセスの再構築、公有財産のマネジメントの推進、財源の確保を徹底すると共に市民、事業者、行政の適切な役割分担を見極めて民間活力をさらに導入すると書いている。</p> <p>本当にやっていくのであれば、私は例をあげるが、<u>公立保育所、公立幼稚園は、本当に公立としてこれほどの数が必要とされているのか。特養をはじめとする福祉施設は今なお直営でやらなければならない理由はあるのか。指定管理者制度については、運営体制の見直し以前にまずは民間に売却をすることを考えるべきではないのか。</u></p> <p>また、<u>市営住宅マネジメント計画</u>についても、民を活用するという観点ではなく、<u>官を残す</u>ということを前提になっていることは全くもって生ぬるいと言わざるを得ないと思っている。</p>		

質疑者 北山 順一 委員

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>このことについて、財務当局としてこれでいいと思っているのか。指摘をしたが市長がこの通りでいいんだと言っているのか。そのことについてはっきりと答弁いただきたい。</p> <p>(要望) 民間活力を導入することを本気でやって欲しい。今の様な状態で、民間活力を導入しているというのは嘘である。本気でやって欲しい。</p>		

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p>2. 市職員の人事配置と人材育成について</p> <p>市政において、行財政改革と職員の活力向上は車の両輪となる重要なテーマである。本市では、かつてはさまざまな都市戦略を掲げて、他都市をリードする最先端都市とも言えるトップランナーだったと自負する。もちろん右肩上りの時代だったので同一視はできないが、ネーミングライツや債権管理対策をはじめとする収入の確保や、積極的な民間活力の導入など工夫によって財源の捻出は可能であった。</p> <p>後は、職員自身のやる気次第で、神戸市がどんどん伸びていくことができるかどうかである。</p> <p>昨年の決算特別委員会で、若い職員を積極的に世界の各都市へ派遣して、人材育成を図るべきと申し上げた時は、当局からも非常に前向きな答弁をいただいた。</p> <p>わずかな望みが出てきたが、<u>神戸市の発展のためには、職員の資質向上が不可欠である。そのためには、常に高いモチベーションを維持することが求められる。</u></p> <p>お決まりの人事配置と人材育成を前例踏襲でやっているようでは、世界に誇るようなことはできない。</p> <p><u>職員を減らすことだけに目を奪われてはならず、職員定数の削減の目標は民間活力の導入や、職員配置の見直しによって達成すればいい。その成果の一部を活用して戦略的な重点配置を行い人材育成をどんどんやっていくべ</u></p>	<p>職員部長</p>	<p>人材配置については、市内経済の活性化のため都市戦略上、非常に重要な、例えば「医療産業都市構想」や「デザイン都市構想」、「企業誘致」など、<u>これまでも重点配置に努めてきたところである。</u></p> <p><u>また、人材育成面でも、戦略的に考えており、短期の海外派遣など特にスペシャリストの養成を視野に入れながら制度を作っていくべきであると考えている。</u></p>

質疑者 北山 順一 委員

質 疑 要 旨	答 弁 者	答 弁 要 旨
<p><u>きである。</u> <u>行政の仕事は人によって成り立っており、人への投資を軽視することは絶対に避けなければならない。</u>このことを念頭において回答いただきたい。</p> <p>(要望) 職員のモチベーションの維持、活力向上について全力をあげて頑張ってもらいたい。</p>		